

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 年度

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人 南の風		
事業所名	グループホームアル・ソーレ		
所在地	大阪府堺市堺区甲斐町西2丁1番15号		
自己評価作成日	平成 24年 10月 10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2770104848-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 10月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」という理念のもと、生活の場ということを意識し、過ごしやすい雰囲気、共に暮らすということを考え、日々取り組んでいます。利用者の背景にあるものをしっかりと理解し、その人らしさを大切にお手伝いさせていただきたいと心がけています。複合施設の特徴でもある、併設しているからこそできるサービスや取り組みでサービスの幅も広がり、希望要望に応えることができるよう、安心と楽しみを今後も継続して提供させていただくことを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

60年近く地域医療に尽力してきた特別・特定医療法人を母体として誕生した、社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。当ホームは同法人の特養やデイサービスセンター、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーションを併設した複合施設の5、6階に位置しています。ホーム内は共有部分が広く、居室もゆったりとして景観がよく、利用者一人ひとりが自分のペースで暮らせるような支援を受けています。職員は利用者ど「共に生きる」家族のような存在を目指しており、常に利用者に寄り添いながら支援をしています。利用者は地域のふれあい喫茶を利用したり、サーカス見物に出かけたり、外食を楽しんだり、ホームでくつろいだり、自分の時間を自由に過ごしています。当ホームは海の近くに設置されていることから、災害対策に力を入れており、安全確保を重点課題として消防署や地域組織と連携しながら取り組んでいます。法人のバックアップもあり、24時間医療連携支援を受けることができ、利用者も職員も安心して過ごすことができるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、地域の資源を活用しながら、地域に支えていただき、又、地域に貢献できるような取り組みを他サービスと協力して取り組んでいます。	理念には「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」と明記し、利用者が地域との繋がりを持ちながら自分らしく暮らせるように支援しています。理念を施設内に掲示し、職員は共有しながら、利用者と「共に暮らす」家族のような存在として自らの役割を自覚し、年間事業計画等を作成して、理念を活かした支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶への参加や祭りやイベント・地域掃除への参加。また逆にホーム行事への招待やボランティアとして、お手伝いにも来ていただけるなど、良い関係でご協力いただいています。	利用者は、地域のふれあい喫茶・ふとん太鼓・堺まつり・納涼会・地蔵盆・地域の見守りネットワーク等に参加して、自然に地域住民との交流を深めています。職員は地域包括支援センターと協力して、認知症サポーター養成講座を開催したり、地域包括支援センターが主催する「家族の会」への参加協力を行ったりして、地域貢献に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域包括と協力し、認知症サポーター養成講座を開催、又、堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し、地域包括や保健センターなどと協力した認知症パネル展・講習会等の啓発活動、地域包括の主催で、家族の会への参加協力など、地域に向けての活動も増えてきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や、地域包括との現状報告や、取り組みや課題などでのアドバイスをいただくなど、参考にさせていただいています。	運営推進会議は、2ヵ月に1回定期開催しています。会議には毎回利用者と家族が多く参加しています。メンバーには、地域住民代表として校区民生委員・地域包括支援センター職員・福祉専門学校や特養等協力事業所の参加もあり、会議ではホーム運営についての積極的な提案や助言等が出されています。職員は出された助言や提案等をホーム運営に活かし、利用者に喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、連絡会などでの相談でアドバイスをいただいたり、情報交換をするなど、又最近始めた地域の見守りネットにも協力しています。	職員は、市(区)の担当者と情報交換をしたり、ホーム運営についての相談をしたりして協力関係を築いています。また、堺区のグループホーム連絡会に所属して、地域包括支援センターや保健センター職員と協力しながら、認知症パネル展や講習会等、啓発活動に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会を通じて、知識と方針など含めた意識統一を図り、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、職員一人一人が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いに耳を傾けることができるよう、コミュニケーションの機会を大切にしています。	身体拘束について「禁止の対象となる具体的な行為」等を正しく理解できるように、研修会や施設内勉強会を行い、「身体拘束を行わない」方針を徹底しています。玄関には施錠せず、職員が聞き取れる程度の風鈴をつけて注意喚起をしています。職員は、利用者が自由に過ごせるように、鍵をかけない支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています	施設内の勉強会を通じて、知識を深め、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、各職員が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いをくみ取れるよう、気軽に相談しやすい雰囲気心を心掛けています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の利用者がそれぞれのニーズで成年後見制度を利用されています。家族からの相談なども含め、NPO 団体からの協力をいただき、その都度指導、助言をいただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書などの書類は、見学时に事前にお渡しし、当日にも再度説明と質問を受け付け、理解と協力を得ています。サービス利用に対して、家族・利用者の不安を少しでも軽減できるよう、ゆっくりとお話を聞かせていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中で、気軽に相談していただけるよう、面会時には近況報告を兼ねてお声掛けをさせていただくなど話しやすい、聞きやすい環境に心掛けています。	運営推進会議のメンバーとして毎回3～4人の家族が出席しています。家族の提言で、職員が自分の名前を書いたエプロンをつけて、分かりやすくするなど、工夫をして利用者に喜ばれています。職員は常に利用者や家族の意向をくみ取る姿勢で臨んでおり、意見を出しやすい環境を整えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議を行う際は、事前に議題を集めておき、時間を有効活用できるように心がけている。又、申し送りの場を活用し、急な事態にも相談、対応できるように努めています。それらを運営会議にも反映させています。	管理者は定例会議等の場ではもちろんのこと、職員と日常的に接する中で意見交換を行い、要望を聴くなど、常に職員が意見を出しやすい雰囲気作りをしています。職員が提案した内容については、会議で職員間の合意を得るなどしてホーム運営に活かしています。また、新規の取り組みについては、職員の理解と協力を得ながら推進するよう努めています。	職員の配置については、ユニット毎に夜勤者の配置を行うため、人員増と体制整備に着手しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や能力に合わせた研修への参加。講師を招いての勉強会や、施設内での事例発表など、職員のニーズや必要性など内容に応じたものを取り入れています。職員面談等を通じて、自己評価も含めたコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせた研修への参加と、施設内の勉強会を中心に、計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対して、講習会を開くなど、それぞれの意欲にサポートできるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の活動や、大阪認知症高齢者グループホーム協議会への加入などで、他施設との情報交換や取り組みを参考にさせていただきながら、自施設のサービス向上に役立っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者、家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じて、ご家族にしばらく泊まり込んでいただくなど、少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者、家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じて、ご家族にしばらく泊まり込んでいただくなど、少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、かかりつけの病院やドクターなど、今までのなじみの関係を大切にしていいただけるように家族の協力をいただきながら継続してお手伝いができるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを常に心がけ、日々の関わりのなかで自己選択・決定の機会を多く持つように心がけ、興味を持っていただけるような取り組みに心がけています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も共に暮らすというかわりの中で、利用者に対しての相談や認知症に対して共に参加できる講習会への誘いなどに取り組んでいます。又ホームの余暇活動などの取り組みや行事に対してボランティア協力をいただくなど、家族からもお手伝いできることがあればという声が増えてきました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院、好きなお店、行きつけのレストランなど家族の協力もいただきながらお手伝いできるように努めています。	職員は、できるだけ利用者の馴染みの場所を選んで出かけられるように支援しています。利用者の旧友や隣人が尋ねて来られることもあり、ホームでは湯茶の接待をしてゆっくりしていかれるように配慮しています。また、年賀状・お礼状等の記載や、郵便物の投函などについても支援しています。利用者が電話をかける際には、利用者が相手に思いを十分伝えられるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの認知症状の中で、集団生活のストレスは所々で考えられるものの、活動などを通じて自然なかかわりが持てるように工夫しながら取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設、病院など、サービスが移っても面会に訪問させていただいています。退所された利用者のご家族も、お手紙で近況を知らせてくださる方や、大きな行事には毎年手伝いに来て下さる方など、良い関係でお付き合いさせていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中でも、生活歴や環境、なじみを重要視し、日々の関わりの中での気づきや、利用者の思いを大切に、家族・職員間での情報の共有に努めています。	利用者の個人記録の中には生活歴や家族構成が分かりやすく記載され、職員が利用者の背景を十分理解した上で、日々の思いや意向をくみ取ることができるようにしています。職員は利用者の意向を尊重し、日常業務の中では接遇を最も大切にした支援をしています。利用者の意向を言葉や表情、しぐさで確認し、待たせず、焦らせず、ゆっくりと自分のペースで思いを表現できるように配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや好みなど、家族間で相談しながら記入していただけるようにして情報をいただいています。その際にはなぜその情報が必要なのか等も説明を加えるように心がけ、理解を求めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での思いや変化に対して気づきを大切に、記録に残し、情報を交換しながら、利用者の状態把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報収集をフロア会議の中で意見をまとめ、家族にもその都度確認し、思いや意向をくみ取りながら計画作成に反映させるよう努めています。	介護認定調査時には家族と一緒に立ち会い、家族と情報を共有しながら支援についての話し合いをしています。介護計画書は利用者、家族の意向を確認した上で、フロア会議で提案し、職員の意見を聞きながら作成しています。介護計画書は6ヵ月ごとに見直しを行い、必要な場合には主治医や看護師、栄養士のアドバイスを受けるなどして介護計画書を充実しています。最終的には利用者・家族に説明をして合意を得たうえで実践しています。アセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録を残し、職員間で情報を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中でみられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、皆で記録に残し、共有しながら必要な対応が素早くできるように心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設内の協力と、関係施設などとも協力体制ができており、必要に応じて柔軟な協力を受けることができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに合わせて、近くの商店やお寺、なじみの花屋さんなど、出かけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に定期的受診、緊急時の対応、その他必要に応じた医療を受けるにあたっての相談と確認を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医との連携も大切にしています。	利用者、家族の希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。希望者には、ホーム提携医師の往診を週1回受けることができます。ホームでは24時間、オンコールで医療連携支援を受けることができます、休日や夜間でも安心して過ごすことができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署と兼務の看護師が定期と随時に訪問してくれ、必要に応じた処置や確認を医師と連携のもと行ってくれており、職員も安心して相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会と、看護師や医師に状態の確認を行い、退院に向けての助言や指導などいただきながら早期に退院できるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針をもとに説明し、同意をいただき、実際に対応が必要になった時には、家族、医師、看護師、栄養士と連携のもと、援助の方向性を確認しつつ、できる限りの必要な援助に努めています。又、利用者にとって必要な支援が受けられる環境も視野に入れ、より良い方向に支援できるように努めています。	終末期の対応については、入居時に利用者・家族へ向けて「看取りに関する指針」を基に説明を行い、意向を確認しています。重度化した場合には、再度、利用者・家族の意向を確認し、できる限り意向に沿った支援をしています。主治医・看護師・管理栄養士・職員でチームを組み、支援体制を整えています。しかし、最終的には医療機関へ入院される場合が多い状況です。ホームでは、過去に終末期支援を行った経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習会で心肺蘇生法や AED の使用方法を学び、ホーム内での緊急マニュアルをその都度見直し、確認を行い、実際の対応に備えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で災害対策委員会を設置しており、マニュアルの作成と見直し、様々なパターンを想定した年2回の消防立会いの避難訓練、南海地震を想定した備蓄等の準備、停電時の確認など、世間の情報を確認しながらその都度考えられる状況に応じた備えができるように心がけています。	ホームのある複合施設全体で災害対策が行われており、消防署立会いのもとに年2回の避難訓練をしています。火災、地震、水害などを想定した避難訓練を行っており、現在は法人のバックアップを受けて施設全体の災害対策委員会を設け、マニュアルの見直しを行い、備蓄の充実や停電時の対応などに力を入れています。ホームでは水や非常食など、利用者が2日間使える程度の量を備蓄しています。	ホームでは、災害対策マニュアルの整備と備蓄の充実に力を入れています。また、地域連携についてどのように進めていくかを検討する予定です。今後は、運営推進会議の議題として提起し、検討してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつや入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、1人1人個別に対応しています。サービスマナー・個人情報保護などの勉強会も取り入れ、意識の統一と確認に努めています。	一人ひとりの利用者を大切にした支援を重視し、職員間で徹底しています。言葉かけや対応については分かりやすく丁寧に行い、食事時間や入浴時間等については、一人ひとりのペースを尊重した支援をしています。居室に鍵をかけて出られる利用者や携帯電話を持参される利用者もありますが、それぞれの意向を尊重した対応をしています。職員には入職時に個人情報保護についての誓約書を交わしています。ホームでは、個人情報保護やサービスマナーについての研修会、勉強会を行い、職員の理解を深めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムやおやつの時間にはメニューを用意し、好みの飲み物を選んでいただいています。おやつバイキングを取り入れたり、食事においても、気分や状態に対応できるように幅を利かせ、入浴は好きな時に入れるように準備しています。日常の中での自己選択・決定の場を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日を予定で固めるのではなく、天候や気温、利用者の調子や気分に合わせて支援できるように、臨機応変ということを常に大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身支度援助だけでなく、お出かけや行事の際には違った気分で参加できるように化粧するなど、おしゃれを楽しんでいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好の調査を行い、献立によっては、別メニューの提供や、状態に応じた軟菜・一口・刻み・とろみ・ソフトなどの提供も行っています。メニューによっては一緒に調理を楽しみ、利用者の意欲に応じて家事動作も参加されています。	食事は法人共有の厨房で調理したものをフロア毎に温め、利用者と共に盛り付けて配膳しています。利用者の嗜好を尊重し、別メニューを提供することもあります。また、利用者嗜好調査を行い、人気の高いメニューを提供したり、朝食ではパンやご飯など主食を選択できるようにしています。利用者と買物に出かけおやつ作りをしたり、食材を搬入してもらい食事作りをしたりして楽しむこともあります。職員は利用者と同じ食事を味わいながら、食事介助をしたり、話題を提供したりして楽しく食事ができるように支援しています。利用者の状態に応じた食べやすい食事形態を工夫したり、好みに応じて外食に出かけ楽しんだりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認と、嗜好の確認を行いながら、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやガーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。希望者は毎週金曜日の歯科往診で口腔ケアとチェックを行い必要に応じて受診しアドバイスや治療を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排せつパターンを把握し、必要な排せつ用具で援助を行い、状況を記録しています。可能な限り、トイレに座るということを大切に援助しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行うなど、タイムリーな支援に努めています。トイレが居室に近いこともあり、おむつ類に頼らずできるだけトイレに座って排泄できるよう、自立支援に力を入れた対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態把握に努め、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただき、乳製品やオリゴ糖の活用などで排せつを促し、悪化しないように早期対応に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備しており、毎日入られる方も数名います。又、毎朝、朝食後の一番風呂でなければという希望もあり、現状問題ないため、対応させていただくなど、それぞれの生活パターンに応じて可能な限り援助しています。	入浴は、利用者の希望に合わせて支援しています。日曜日を含めて毎日入浴できますが、多くの利用者は2日に1回程度の入浴をしています。また、毎日入浴をしている利用者、朝風呂を楽しむ利用者、入浴を好まない利用者等、職員は一人ひとりに合わせた支援をしています。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯なども用意して、利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に自由に過ごしていただいています。夜間眠れないときは共有スペースでお茶やおしゃべりをして過ごしたり、日中に関しても状態に合わせて臥床時間を作るなどそれぞれのペースで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイルにそれぞれの服薬内容の一覧と、注意事項をまとめており、指示や変更に対しては申し送りです。都度確認しています。服薬漏れの無いよう、チェック表で確認し、服薬に関して変化や問題が発生した時には看護師・医師に確認し早期対応ができるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字・カラオケ・詩吟の時間を月1回予定しており、それぞれ好みに応じて参加していただいています。その他秋の作品展に向けて、1年かけて様々な作品作りに取り組み、皆さんに見ていただくことを張り合いとしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長距離、長時間の外出がなかなか困難となりつつある現状で、家族や地域の方に情報をいただきながら近くの公園や施設、イベントを利用し、外出気分を楽しんでいます。	買物や散歩に出かけたり、近くにあるふれあい喫茶店でお茶を楽しんだり、同法人特養のロビーに出かけて地域の人々と交流をしたり、家族と定期的に外出したり、利用者一人ひとりが外出の機会を持っています。日頃は出かけにくい場所へは、年間行事やイベント、外食、サーカス鑑賞等の機会を利用し、外出しています。	利用者一人ひとりがホーム玄関を出て外出し、ホーム以外の人々と触れ合う機会を持つ状況については、全て「外出」として記録に残してはいかがでしょうか。また、記録用紙に「外出」の項を設けて記載するなど、検討してはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談をしながら、自己管理、見守りの管理、など状態に応じた管理を行っています。買い物時には、支払動作をともに行うなど心がけ、援助しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	1階の公衆電話は自由に使っています。そのつど希望に必要なお手伝いをしています。携帯電話を持っている利用者もいます。 遠方の親せきからの手紙など、代筆したり写真を添えたりしながらお返し、関係を大切にしています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加え、毎週木曜日には衛星日と設定し、キッチン周りの消毒や、ゴミ箱等の洗浄の日にあて、清潔を保つよう心がけています。光・音・温度・湿度の配慮にも心がけ、居心地の良い環境づくりに努めています。	共有空間が広くゆったりとしています。利用者が居室以外でも一人になれる場所を設けており、廊下など数カ所にソファや椅子を置き、ゆっくりとくつろげる場所にしています。トイレを多く設置し、使いやすくしています。ベランダが広々としており、植栽や家庭菜園スペースを設けたりして、利用者が楽しめるように工夫しています。災害時には、利用者がベランダから避難できるよう安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には所々に椅子を配置し、居室以外にも落ち着く場所を見つけてもらえるようにしています。 又談話室や、7階フロアにもゆとりの空間があり面会者と気兼ねなく過ごしていただけるように活用されています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたなじみのものを持参していただき、なるべく住み慣れた環境を再現していただけるよう協力をお願いしています。少しずつ必要なものを取り入れながら安心して過ごせるお部屋作りを一緒に行っています。	居室はベランダが広く窓からの景観に恵まれた造りになっています。利用者は和室、洋室それぞれの良さを生かして家具を配置し、清潔で明るく個性のある部屋になっています。居室への持ち込みは自由で、冷蔵庫、茶道具、テレビ、机、椅子、タンス、ドレッサー、靴箱や手押し車、ぬいぐるみ、写真など、生活に必要な小物も置いて使いやすく工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の変化に伴い理解の状態に応じてそれぞれのスイッチに説明書きを加えるなど、工夫すれば自分でできることに対しても心がけています。		